とどろく炎の鼓動！ 数十秒の舞いに命をかけて

令和６年10月13日、初めて手筒花火を上げた津まつりにて撮影

このまち 津市で輝く vol. 103

美杉手筒会 種橋（たねはし） マミ さん

1981年生まれ、四日市市在住。25年の歴史がある美杉手筒花火の担い手として活躍中。同会のInstagramを立ち上げ、広報活動も行う。練習や打ち合わせのため、四日市から美杉まで毎週通うことも。

長さ1mの竹筒に火薬を詰め、人が抱えて噴出させる手筒花火。吹き上がる火柱は10mを超え、1000度の火の粉に耐えながら炎を上げる。津市唯一の手筒花火の揚げ手である美杉手筒会で、初めての女性揚げ手となったのが種橋さんだ。

種橋さんは祭巡りが好きで、県内の多くの祭を訪れていた。「15年前、美杉手筒会の手筒花火に出会い、その迫力と美しさのとりこになりました。命の危険を伴う花火だとは知っていましたが、自分もやってみたいと思いました」と当時を振り返る。

昨夏、美杉夏まつり納涼花火大会の終了後、美杉手筒会に直談判。念願の揚げ手となった。

その2カ月後、津まつりでの初舞台が決まった。練習に練習を重ね、自らが上げる手筒花火は自らで作るという習わしのもと、竹の切り出しから火薬を詰めるまで、先輩に教わりながら手筒花火を作った。

そして迎えた当日。夜のとばりが下りたお城公園。抱える手筒花火に火が付いた。怖さはなかった。降り注ぐ火の粉は熱かったが、その向こう側にいる、たくさんの観客の笑顔が鮮明に見えたことが印象的だった。

「揚げ手にしか見ることのできない光のトンネルに立てたことが、涙が出るほどうれしかった」と語る熱き炎の担い手は、今年も津まつりでその勇姿を見せる。

〈発行日〉令和7年7月1日
〈編集・発行〉津市政策財務部広報課
〒514-8611 三重県津市西丸之内23-1
☎059-229-3111 FAX059-229-3339

津市民くらしの安心インフォメーション

医療

受診可能な医療機関を知りたいとき
三重県救急医療情報センター
059-229-1199
24時間 年中無休
医療ネットみえ

応急措置方法の案内や健康相談
津市救急・健康相談ダイヤル24
0120-840-299
24時間 年中無休 通話無料

夜間・休日の発熱や体調不良のとき
津市の応急診療所
市ホームページ

災害

避難所
ハザードマップ